

5 イエスの降誕と終末

わたしたちは、ヨハネ黙示録で終末の恐るべきラストシーンを学ぶことができる。しかし、終末の本当の意味は、イエスの降誕によって救いの時代に入ったことを告げるところにある。この世の終末は、すでにイエスの降誕によって始まっている。それ故、現在は終末のただ中である。人類は終末に入って、すでに二千年を経過したことになる。

やがて時が来て、新天新地の創造と神の国の到来によって終末を終わらせたもうのは、救い主イエス・キリストである。救い主は、終末を始め、また、終わらせたもうお方である。主の御手の中に終末は完全に握られている。それ故、わたしたちは、終わりの日の審判を予感しても、恐れたり、悲しんだりする必要はない。

見よ、今は恵みの時、見よ、今は救いの日である。(コリント第2 6の2)

これが終末の本質である。まことに、イエス・キリスト降誕によって、救いの喜びがこの世に訪れていることを感謝し讃美することこそが、終末の本質でなければならない。誤解して希望を失ってはならない。

終末の主イエス・キリストは、わたしたちの心の扉をたたいて「今は救いの日であるから、救いにあずかりなさい。今は恵みの時であるから、恵みを受け取りなさい」と、夜となく昼となく招いておられる。終末を生きる

わたしたちの緊急課題は、今ただちに悔改めて主の招きに応じることで
ある。(1994年12月「復活」第339号)